

Luncheon Linguistics, 13 Oct 2021

2021（令和3）年10月13日

「ベンガル語動詞 *pôra*（おちる）の多義性」

発表者：石川さくら（東京外国語大学大学院博士前期課程）

本発表では、ベンガル語の動詞 *pôra*（おちる）の本動詞としての使用を対象に、その多義性を認知意味論の観点から分析した。*pôra*は「おちる」だけではなく、日本語で「当たる」「つく」「生じる」などと表現されうる事象にも使用される多義語である。その意味は、上から下への空間移動「おちる」という語義を概念的な中心義として、中心となるイメージスキーマ「おちる」とそこからイメージスキーマ変換を経た3つのイメージスキーマ「着点につく」「起点から出る」「結果状態」で表せることを提案する。また、それぞれのイメージスキーマのタイプの中でもトラジェクターとランドマークの関係性により語義を区別することができ、メタファーやメトニミーといった意味拡張と合わせて多義ネットワークが形成されていると考えられる。